

平成 22 年 12 月 15 日
内閣府公共サービス改革推進室

情報処理技術者試験事業の評価について（案）

競争の導入による公共サービスの改革に関する法律（平成 18 年法律第 51 号）第 7 条第 8 項の規定に基づき、標記事業の評価は以下のとおりである。

I 事業の概要等

1 実施の経緯及び事業の概要

独立行政法人情報処理推進機構（以下「機構」という。）が所管する情報処理技術者試験事業については、公共サービス改革基本方針（平成 20 年 12 月 19 日改定を閣議決定）において、競争の導入による公共サービスの改革に関する法律（平成 18 年法律第 51 号）に基づき民間競争入札（以下「民間競争入札」という。）を実施することを決定した。これを受けて機構は官民競争入札等監理委員会の議を経て、「情報処理技術者試験事業 民間競争入札実施要項」（以下「実施要項」という。）を定め、実施要項に基づき、民間競争入札を実施して受託事業者を決定した。その概要は以下のとおりである。

事 項	内 容
業務内容	中国支部（広島試験地）が実施していた情報処理技術者試験実施事業（試験会場の確保、会場責任者、試験監督員等の確保及び割付、試験運営業務等）に係わる業務
契約期間	平成 21 年 4 月 1 日から平成 22 年 12 月 31 日までの 1 年 9 か月間 実施する試験は次のとおり。 ①平成 21 年 10 月の第 3 日曜日に実施予定の平成 21 年度秋期の試験 ②平成 22 年 4 月の第 3 日曜日に実施予定の平成 22 年度春期の試験 ③平成 22 年 10 月の第 3 日曜日に実施予定の平成 22 年度秋期の試験
受託事業者	株式会社 I C S コンベンションデザイン
契約金額	12,524,400 円（税込）
実施要項に規定する実施状況の調査時期	平成 22 年 9 月末

<p>業務に当たり確保されるべきサービスの質</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 機構の試験会場の借り上げ実績を参考とした概ね交通の便が良く、清潔かつ静謐な環境を備えた受験申請者数全数の収容を可能とする試験会場の確保 ○ 機構の試験室内の座席配置の実例を参考とした余裕を持った試験室内の座席配置 ○次に掲げる各項に特に注意を払いつつ、マニュアルに基づいた受験者の安全確保を第一に考えた試験運営 <ul style="list-style-type: none"> a) 試験問題の事前の漏洩の絶対防止 b) 試験時間の過不足の絶対防止 c) 不正行為の防止に努めるとともに、不正行為に対する厳正な対処 d) マニュアルを厳格に適用することによる正確かつ公平な出欠確認及び受験資格の確認 e) 受験者に配付した答案用紙及び受験票(本人控えは除く。)の全数回収 f) 回収した答案用紙への加筆及び訂正の絶対防止 g) 未使用答案用紙の欠席者及び部外者への流出の絶対防止 ○ 試験会場の周辺住民の生活環境への配慮及び試験会場周辺での交通トラブルの防止
----------------------------	--

2 受託事業者決定の経緯

入札参加者は3者であり、いずれも入札参加資格及び必須審査項目を満たしていた。平成21年3月4日に開札したところ、3者とも予定価格の範囲内であったことから、この3者について総合評価を行い、上記受託事業者が落札者となった。

II 評価

1 評価方法について

平成22年11月19日に機構から提出された情報処理技術者試験事業の実施状況について(別添)に基づき、サービスの質の確保、実施経費等の観点から、事業の評価を行うものとする。

2 対象公共サービスの実施内容に関する評価

ア 試験会場の確保

交通の便が良い従来と同様の会場を基本として、受験者全員を確実に収容できる試験会場を確保しており、確保すべきサービスの質は達成できたものと評価できる。

イ 余裕を持った試験室内の座席配置

機構が定めたマニュアルに基づき、1 テーブル 3 名がけの机に 2 名を座らせるなど、受験者が試験に臨みやすい余裕を持った座席配置を行い、受験者間での苦情もなく試験が実施できたことから、確保すべきサービスの質は達成できたものと評価できる。

ウ マニュアルに基づいた受験者の安全確保を第一に考えた試験運営

a. 試験問題漏洩の絶対防止

機構が定めたマニュアルに基づき、問題用紙及び回答用紙について、試験前の厳重な保管、試験会場への確実な搬入など、試験前での試験問題漏洩がないよう、管理の徹底が図られた。

また、試験会場では、試験監督員全員が問題用紙及び答案用紙の管理を徹底し、受験者一人一人に確実に配布している。

このように、試験前、試験会場においても、試験問題の漏洩がなく、確保すべきサービスの質は達成できたものと評価できる。

b. 試験時間の過不足の絶対防止

試験開始時間が遅延した場合、試験終了時間を調整することにより、試験時間の過不足を防止することとしているが、試験開始時間の過不足は生じなかった。

c. 不正行為の防止に努めるとともに、不正行為に対する厳正な対処

機構が定めマニュアルに基づき、机上におくことができるものの徹底、試験監督員による試験中の巡回監視などにより、不正行為の防止に努め、不正行為の発生がなかったことから、確保すべきサービスの質は確保できたものと評価できる。

(『監督員マニュアル』より抜粋)

※机上に置けるもの・・・受験票、黒鉛筆又はシャープペンシル、鉛筆削り、消しゴム、定規、時計（アラームなど時計以外の機能は使用不可）、ハンカチ、ティッシュ

d. マニュアルを厳格に適用することによる正確かつ公平な出欠確認及び受験資格の確認

機構が定めたマニュアルに基づき、試験監督員が、受験者個々の受験票と受験者本人の確認等を通じて、正確に出欠及び受験資格の確認を行っており、確保すべきサービスの質は達成できたものと評価できる。

e. 受験者に配付した答案用紙及び受験票(本人控えは除く。)の全数回収

受験者全員から答案用紙及び受験票を回収し、回収した答案用紙と受験票の枚数の一致も確認していることから、確保すべきサービスの質は達成できたものと評価できる。

f. 回収した答案用紙への加筆及び訂正の絶対防止

試験終了後、回収した答案用紙への加筆や訂正は一件もなかったことから、確保すべきサービスの質は達成できたものと評価できる。

g. 未使用答案用紙の欠席者及び部外者への流出の絶対防止

答案用紙については、出席した受験者一人一人に対して、確実に配布・回収し、回収分と未使用分の合計が、受験者への配布前の枚数と同数であることも確認しており、確保すべきサービスの質は達成できたものと評価できる。

エ 試験会場の周辺住民の生活環境への配慮及び試験会場周辺での交通トラブルの防止

試験当日、試験会場の規模等に応じた適切な人数を警備員として配置するなどの措置を行い、交通トラブルや周辺住民からの苦情は一件も発生していないことから、確保すべきサービスの質は達成できたものと評価できる。

なお、警備員の配置実績は次のとおりである。

- (1) 21年度秋期試験時、借用会場である広島工業大学他4会場のうち、一番規模の大きい会場(3,000名超)である広島工業大学は、郊外にあることから、駐車トラブル等、近隣住民からのクレームを避けるために警備員を14名配置した。
- (2) 22年度春期試験時、借用会場である広島工業大学他3会場のうち、前年秋期試験と同様に広島工業大学に警備員を14名配置した。
- (3) 22年度秋期試験時、借用会場である広島工業大学他4会場のうち、広島工業大学では他試験も実施されていたため警備員を増員し15名配置した。

3 実施経費

平成21年4月から平成22年12月までの3回の試験実施に係る事業として民間競争入札を実施し、入札者が提出した企画書及び入札金額について、総合評価(除算方式(基礎点100点、加算点50点))を行い、落札額は12,524,400円(税込)で、落札者を決定した。

平成22年度秋期試験において、機構の指示による試験会場増設に伴う試験監督員の手配等の追加経費として261,450円要したため、実施経費(平成21年度秋期及び

平成 22 年度の試験 3 回分の経費) は 12,785,850 円となった。

この実施経費は、従来の実施に要した経費（平成 20 年度及び平成 21 年度春期の試験 3 回分の経費）の約 64%に相当し、機構側は、約 720 万円の経費削減となっている。

本事業は、従来、機構が自ら実施してきており、従来費用と比較すると、大幅な削減となっている。

【広島試験地】

従来費用 (A) (試験 3 回分)	:	19,987,000 円
実施経費 (B) (")	:	12,785,850 円
契 約 額 (")	:	12,524,400 円
試験会場増設に伴う経費	:	261,450 円
削 減 額 (B-A)	:	△ 7,201,150 円

注：従来費用は、平成 20 年度及び平成 21 年度春期の試験 3 回分の費用である。

4 総括

各業務の実施状況において、機構が実施したときと同様、試験問題の事前漏洩や試験遂行の際のトラブル等が一件も発生しなかったこと、平成 22 年秋期試験においては、試験会場の増設にも拘わらず試験監督員の手配等も問題なく行ったことなどから、設定された確保すべき水準は全て達成できたものと評価できる。

実施経費は、平成 22 年秋期試験において、試験会場増設に伴う試験監督官の手配等に係る経費が約 26 万円増加したものの、これを含めた実施経費は従来の実施に要した費用の約 6 割、約 720 万円の経費が削減されていることは評価できる。

また、民間競争入札を契機として、当該試験の実施業務を担う中国支部を平成 21 年度に廃止したことも評価できる。

さらに、受験者の少ない試験室に対しても主任監督員以外に監督員を配置して、遅刻した受験者に対応するなど、試験事業を確実に遂行するための受託事業者の創意工夫が発揮されている。

今後も、広島試験地においては、引き続き民間競争入札を実施していくとともに、平成 22 年 10 月から民間競争入札による事業を実施中の他の試験地の実施状況も踏まえつつ、民間競争入札を未実施の地方支部が実施している試験地においても民間競争入札を実施していく必要がある。

以上

情報処理技術者試験事業の実施状況について

平成 22 年 11 月 19 日

独立行政法人 情報処理推進機構
情報処理技術者試験センター

1. 事業概要

中国支部（広島試験地）が行っていた試験実施事業（試験会場の確保、会場責任者、試験監督員等（以下「会場責任者等」という。）の確保及び割付、試験運營業務等）に係わる業務について、「競争の導入による公共サービスの改革に関する法律」（平成 18 年法律第 51 号）に基づく民間競争入札を行い、以下のとおり事業を実施した。

2. 請負業務期間

平成 21 年 4 月 1 日から平成 22 年 12 月 31 日までの 1 年 9 か月間
実施する試験は次のとおり。

- ① 平成 21 年 10 月の第 3 日曜日に実施の平成 21 年度秋期の試験
- ② 平成 22 年 4 月の第 3 日曜日に実施の平成 22 年度春期の試験
- ③ 平成 22 年 10 月の第 3 日曜日に実施の平成 22 年度秋期の試験

3. 事業実施機関

（広島試験地） 株式会社 I C S コンベンションデザイン

4. 広島試験地

(1) 実施規模

表 1 実施規模

	平成 19 年度春期	平成 19 年度秋期	平成 20 年度春期	平成 20 年度秋期	平成 21 年度春期	平成 21 年度秋期	平成 22 年度春期	平成 22 年度秋期
受験申請者数	4,099	5,069	3,682	4,498	4,343	5,093	4,322	5,075
会場数	4	5	4	4	5	5	4	5
事業実施機関	独立行政法人情報処理推進機構					株式会社 I C S コンベンションデザイン		

(2) 調査項目

- イ. 問題冊子の漏洩の数とその原因について
- ロ. 答案用紙の回収漏れの数とその原因について
- ハ. 試験日当日におけるクレームやトラブルの内容と対処方法について
- ニ. 実施経費

(3) 調査方法

機構は、民間事業者から受けた請負事業の実施状況の報告、民間事業者へのヒアリング、受験者からの問い合わせ結果、回収した答案枚数等を通じて把握した。

(4) 調査結果

①平成 21 年 4 月～平成 22 年 10 月に実施した試験における調査項目イ、ロの結果

表 2 調査項目イ、ロの目標と実績

調査項目	平成 19 年度春期	平成 19 年度秋期	平成 20 年度春期	平成 20 年度秋期	平成 21 年度春期	平成 21 年度秋期	平成 22 年度春期	平成 22 年度秋期
試験問題の事前漏洩件数 (実績)	0	0	0	0	0	0	0	0
答案用紙の回収漏れ件数 (実績)	0	0	0	0	0	0	0	0
事業実施機関	独立行政法人情報処理推進機構					株式会社 ICS コンベンションデザイン		

なお、事前漏洩を絶対防止するため、独立行政法人 情報処理推進機構（以下、「機構」という。）と落札事業者間で、原則、次のとおり処理を行っている。

- (a) 試験日 2 日前、機構が手配した問題輸送事業者の倉庫で、問題輸送事業者立ち会いの下、落札事業者は、輸送コンテナの鍵を解錠し、封印を外して問題等の箱数を確認する。確認後は、施錠、再封印し問題輸送事業者が厳重に保管する。
- (b) 落札事業者は、試験当日朝、問題輸送事業者が輸送してきた輸送コンテナを試験会場で受け取り、輸送コンテナの鍵を解錠し、封印を外して問題等箱数を再確認するとともに、問題箱等が未開梱であることを検品の上、問題輸送事業者が試験会場内の試験会場事務局に搬入する。
- (c) 試験当日午前の試験開始時刻に間に合うよう、試験会場事務局内で、試験区分ごとに梱包された問題等を開梱し、試験室別に受験申請者数と同数の問題冊子、答案用紙をセットし、確認を行った後、試験監督員により試験室内に運び入れる。

②平成 21 年 4 月～平成 22 年 10 月に実施した試験における調査項目ハの結果

- (a) 機構の試験会場の借り上げ実績を参考とした概ね交通の便が良く、清潔かつ静謐な環境を備えた受験申請者数全数の収容を可能とする試験会場の確保。

結果は、試験会場は表 3 のとおり、公共交通機関を利用してアクセスすることが可能な会場を選定しており、機構が示した条件を満たしていることを確認した。

表3 借用会場

	平成19年度春期	平成19年度秋期	平成20年度春期	平成20年度秋期	平成21年度春期	平成21年度秋期	平成22年度春期	平成22年度秋期
受験申請者数	4,099	5,069	3,682	4,498	4,343	5,093	4,322	5,075
借用会場	広島工業大学	広島工業大学	広島工業大学	広島工業大学	広島工業大学	広島工業大学	広島工業大学	広島工業大学
会場規模	2,630	3,824	2,359	3,200	2,775	3,560	2,888	3,437
交通機関	広電宮島線 楽々園駅下車徒歩15分	広電宮島線 楽々園駅下車徒歩15分	広電宮島線 楽々園駅下車徒歩15分	広電宮島線 楽々園駅下車徒歩15分	広電宮島線 楽々園駅下車徒歩15分	広電宮島線 楽々園駅下車徒歩15分	広電宮島線 楽々園駅下車徒歩15分	広電宮島線 楽々園駅下車徒歩15分
借用会場	広島情報専門学校	広島情報専門学校	広島情報専門学校	広島情報専門学校	広島情報専門学校	広島情報専門学校	広島情報専門学校	広島情報専門学校
会場規模	609	633	619	568	316	520	440	520
交通機関	広電市内電車南区役所前駅下車徒歩1分	広電市内電車南区役所前駅下車徒歩1分	広電市内電車南区役所前駅下車徒歩1分	広電市内電車南区役所前駅下車徒歩1分	広電市内電車南区役所前駅下車徒歩1分	広電市内電車南区役所前駅下車徒歩1分	広電市内電車南区役所前駅下車徒歩1分	広電市内電車南区役所前駅下車徒歩1分
借用会場	広島工業大学専門学校	広島コンピュータ専門学校	広島工業大学専門学校	広島翔洋高等学校	広島コンピュータ専門学校	広島コンピュータ専門学校		海上自衛隊幹部候補生学校
会場規模	849	496	688	720	491	516		188
交通機関	J R西広島駅下車徒歩6分	J R横川駅下車徒歩5分	J R西広島駅下車徒歩6分	J R坂駅下車徒歩2分	J R横川駅下車徒歩5分	J R横川駅下車徒歩5分		小用からバスで第一術科学校前下車徒歩5分
借用会場		中小企業大学校広島校			県立広島大学	県立広島大学	県立広島大学	県立広島大学
会場規模		105			751	487	990	923
交通機関		広電宮島線 草津駅下車徒歩12分			広電市内電車県病院前駅下車徒歩7分	広電市内電車県病院前駅下車徒歩7分	広電市内電車県病院前駅下車徒歩7分	広電市内電車県病院前駅下車徒歩7分
借用会場	広島トレーニングスクール	広島トレーニングスクール	広島トレーニングスクール	広島トレーニングスクール	広島トレーニングスクール	広島トレーニングスクール	広島トレーニングスクール	広島トレーニングスクール
会場規模	11	11	16	10	10	10	4	7
事業実施機関	独立行政法人情報処理推進機構					株式会社ICSコンベンションデザイン		

- (b) 試験の座席配置については、原則、1人用机は、隣の机と離して配置し、複数人数の長机では、隣席を空けて試験定員に応じて配置した。

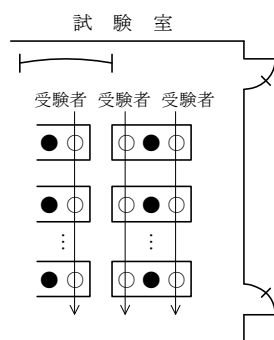


図 座席配置の例（『監督員マニュアル』から抜粋）

- (c) 試験時間の過不足の防止について
該当する事実はなかったが、仮に試験開始時刻が遅れた場合は、遅れた時間分、終了時刻を遅らせることにより、試験時間の過不足が絶対生じないように、指導している。
- (d) 不正行為の防止及び不正行為に対する厳正な対処
該当する事実はなかったが、不正行為を絶対防止するため、机上に置くことが認められるもの*以外は、何も机上に置かせないようにする。試験中は、試験室内を定期的に巡回するよう指導している。
※机上に置けるもの・・・受験票、黒鉛筆又はシャープペンシル、鉛筆削り、消しゴム、定規、時計（アラームなど時計以外の機能は使用不可）、ハンカチ、ティッシュ
- (e) マニュアルを厳格に適用することによる正確かつ公平な出欠確認及び受験資格の確認確認できた。
- (f) 受験者に配付した答案用紙及び受験票（本人控えは除く。）の全数回収。
全て回収できた。
- (g) 回収した答案用紙への加筆及び訂正の防止について
該当する事実はなかった。
- (h) 未使用答案用紙の欠席者及び部外者への流出防止
該当する事実はなかった。
- (i) 試験日当日におけるクレームやトラブルの内容と対処結果
該当する事実はなかった。
- (j) 試験会場の周辺住民の生活環境への配慮及び試験会場周辺での交通トラブルの防止
株式会社ICSコンベンションデザインは、警備員を配置し対応したため問題も発生せずクレームもなかった。

③平成 21 年 10 月～平成 22 年 10 月に実施した試験における調査項目ニの結果

表 4 受験申請者数及び実施経費

	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度 春期	平成 21 年度 秋期	平成 22 年度 春期	平成 22 年度 秋期
事業実施 機関	独立行政法人情報処理推進機構				株式会社 I C S コンベンションデザイン		
受験申請 者数	9,730	9,168	8,180	4,343	5,093	4,322	5,075
実施経費	17,928,000 円	16,063,000 円	14,468,000 円	5,519,000 円	4,174,800 円	4,174,800 円	4,436,250 円*

* 平成 22 年秋期試験において、機構の指示による試験会場の増設に伴う試験監督員の手配等に係わる経費（261,450 円）の増加により、実施経費は 4,436,250 円となった。

(5) 評価

市場化テストにより、民間事業者に委託した中国支部の試験実施事業に係る調査項目の達成結果については、上記のとおりであり、過去、機構で実施していた時と同様に試験問題の事前漏洩等が無かったこと、また、会場確保は事業者自身で確保できたことから、前述のとおり概ね評価できる。